

株式会社コンテック

2008年3月期 決算説明会

2008年 5月20日



1. コンテックグループの状況
2. 2008年3月期 経営成績の概況
3. 中期経営計画の進捗 2007年/3月期～2010年/3月期

.....

添付資料 会社紹介

1. コンテックグループの状況～1



2008年3月期 連結売上高 215.8億円
(2007年3月期 連結売上高 237.8億円)

社名: 株式会社コンテック

設立: 1975年 4月 1日

本社所在地: 大阪市西淀川区姫里3-9-31

資本金: 11億1,960万円('08年3月31日現在)

(発行株式数 330万株)

主要株主: (株)ダイフク 65.72%('08年3月31日現在)

従業員数: 676名(連結) 258名(単体) ('08年3月31日現在)



■国内事業所

□東部支店 東京都江東区亀戸2-25-14 立花アネックスビル2F

□西部支店 大阪市西淀川区姫里3-9-31

□国内営業所 北関東／立川／長野／神奈川／静岡／名古屋／北陸／京滋／広島／九州

■国内子会社

株式会社コンテック・イーエムエス (生産)

■海外子会社

CONTEC MICROELECTRONICS U.S.A. INC. (販売)

上海康泰克電子技術有限公司 (販売・開発・生産)／北京康泰克電子技術有限公司 (販売・開発)

台湾康泰克股份有限公司 (開発・生産)

- 2007年3月に東証第二部に上場、同年5月に、2007年度を初年度とするグループ中期経営計画を策定し実行中。
- 初年度である2008年3月期の実績を踏まえ、また、変化しつつある経済環境を反映させて、計画数値の修正を行う。
- 2008年度 基本方針
 - ①売上を増大させるため、コンテックグループが持つ販売から技術・生産・サービスまでの全てにおいて「構造改革」を実行する。
 - ②ビジネスのグローバル化を強力に推進する。
 - ③内部統制システムを確立する。

2. 2008年3月期決算 経営成績の概要～1



連結損益計算書 増減

(単位：百万円)

	2007年3月期	2008年3月期	増 減	増減率%
売 上 高	23,785	21,584	△ 2,201	△ 9.3
売 上 総 利 益	4,671	4,536	△ 134	△ 2.9
営 業 利 益	1,051	572	△ 479	△ 45.6
経 常 利 益	995	577	△ 418	△ 42.0
当 期 純 利 益	660	438	△ 221	△ 33.6

(総括)

コア事業であるD&C事業部門の売上減少に加え、販管費が増加、子会社においても不良債権・在庫処理等の特殊要因により、当期純利益は前年比33.6%減少となった。

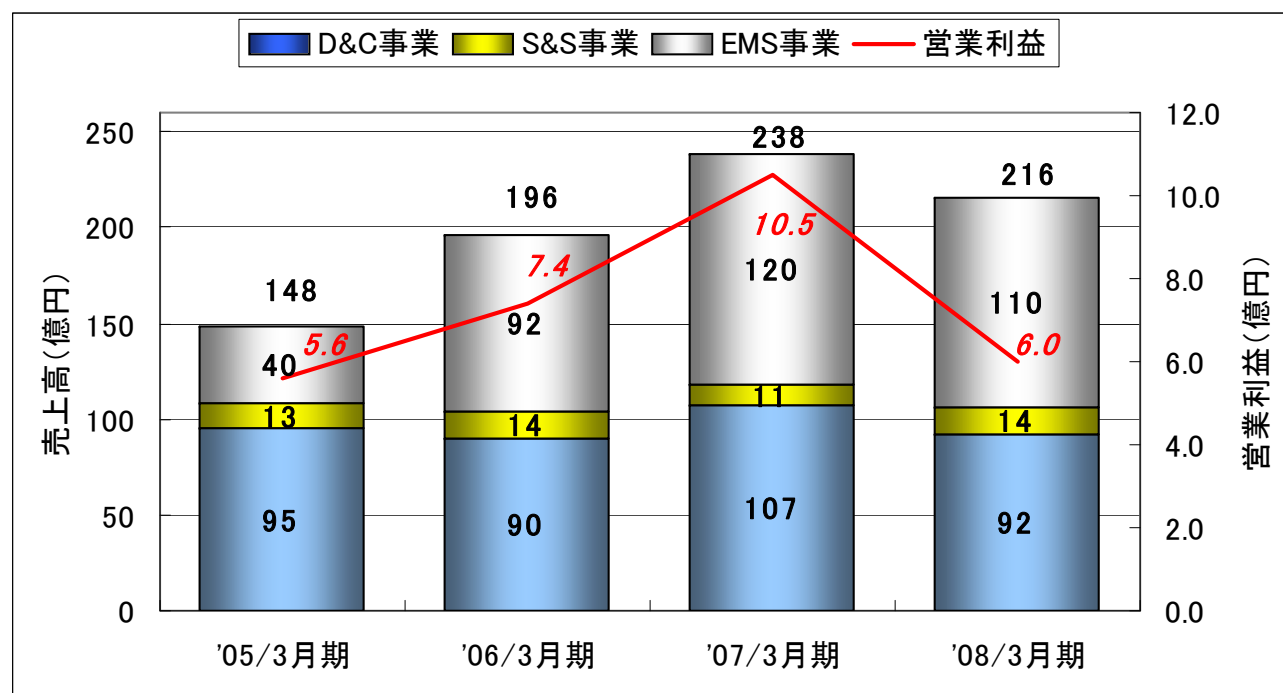
2. 2008年3月期決算 経営成績の概要～2



【当社グループの事業部門別売上高 単位:億円】

事業部門	2007年3月期		2008年3月期	
	金額	構成比率	金額	構成比率
デバイス&コンポーネント(D&C)事業部門	106.5	44.8%	91.8	42.6%
ソリューション&サービス(S&S)事業部門	11.0	4.6%	13.8	6.4%
EMS事業部門	120.2	50.6%	110.1	51.0%
合計	237.8	100.0%	215.8	100.0%

【連結】



EMS事業は、'04/10より開始。'05/3月期は半年分

2. 2008年3月期決算 経営成績の概要～3



- **デバイス&コンポーネント(D&C)事業部門**

当社の主力事業として、中期計画では主たる経営資源を投入し、事業の拡大を図る。

- 拡張ボード系機器

- 電子機器検査装置向けの需要などがあったが、後半から設備投資が減速傾向となり、売上高4,167百万円(前年同期比2.3%減)。

- 産業用パソコン系機器

- 大口案件終了の影響が大きく、売上高3,395百万円(前年同期比25.0%減)。

- ネットワーク系機器

- 組込用無線LAN製品の拡販に努めたが、流通業界向けの納入が一段落したため、売上高1,198百万円(前年同期比31.0%減)。

- サービス・その他

- リモートI/O技術、新画像通信技術、次期無線技術などの研究開発を受託し、売上高426百万円(前年同期比260.3%増)

- **ソリューション&サービス(S&S)事業部門**

主に自動車業界向けのシステム事業として堅実に伸ばしていく。

- 自動車業界の積極的な設備投資などにより、売上高は1,380百万円(前年同期比24.7%増)

- **EMS事業部門**

ダイフクからの受託生産として、安定的に事業を継続していく。

- 株式会社ダイフクの物流システム部門からの受注が前期より減少したため、売上高は11,014百万円(前年同期比8.4%減)

2. 2008年3月期決算 経営成績の概要～4



連結貸借対照表 増減

(単位：百万円)

科 目	07年3月期	08年3月期	増 減	科 目	07年3月期	08年3月期	増 減
資 産 の 部	17,165	15,768	△ 1,397	負 債 の 部	10,391	8,975	△ 1,416
流 動 資 産	12,634	11,518	△ 1,116	流 動 負 債	7,864	7,285	△ 579
現 預 金	2,283	2,853	570	仕 入 債 務	5,310	3,882	△ 1,428
売 上 債 権	5,395	4,379	△ 1,016	短 期 借 入 金	1,395	2,215	820
棚 卸 資 産	4,493	3,981	△ 512	そ の 他	1,157	1,187	30
そ の 他	472	356	△ 116	固 定 負 債	2,527	1,689	△ 838
貸 倒 引 当 金	-11	-52	△ 41	長 期 借 入 金	2,000	1,200	△ 800
固 定 資 産	4,531	4,250	△ 281	そ の 他	527	489	△ 38
有 形 固 定 資 産	3,051	2,909	△ 142	純 資 産 の 部	6,773	6,793	20
無 形 固 定 資 産	566	614	48	株 主 資 本	6,441	6,718	277
投 資 そ の 他	912	726	△ 186	評 価 ・ 換 算 差 額 等	332	74	△ 258
合 計	17,165	15,768	△ 1,397	合 計	17,165	15,768	△ 1,397

(総括)

・売上減少に伴い総資産を圧縮、事業関連性の薄い資産の売却を行い、財務内容の健全化を進めた結果自己資本比率が向上(39.5%→43.1%)

2. 2008年3月期決算 経営成績の概要～5



主な経営指標（連結ベース）

	' 07年3月期	' 08年3月期
営業利益率（％）	4. 4	2. 7
R O E	11. 3	6. 5
1株当たり当期純利益(円)	241. 91	132. 97
年間1株当たり配当(円)	44. 0	44. 0
配当性向（％）	18. 2	33. 1
自己資本比率（％）	39. 5	43. 1
1株当たり純資産(円)	2, 052. 68	2, 058. 61
D / E レシオ	0. 5	0. 5

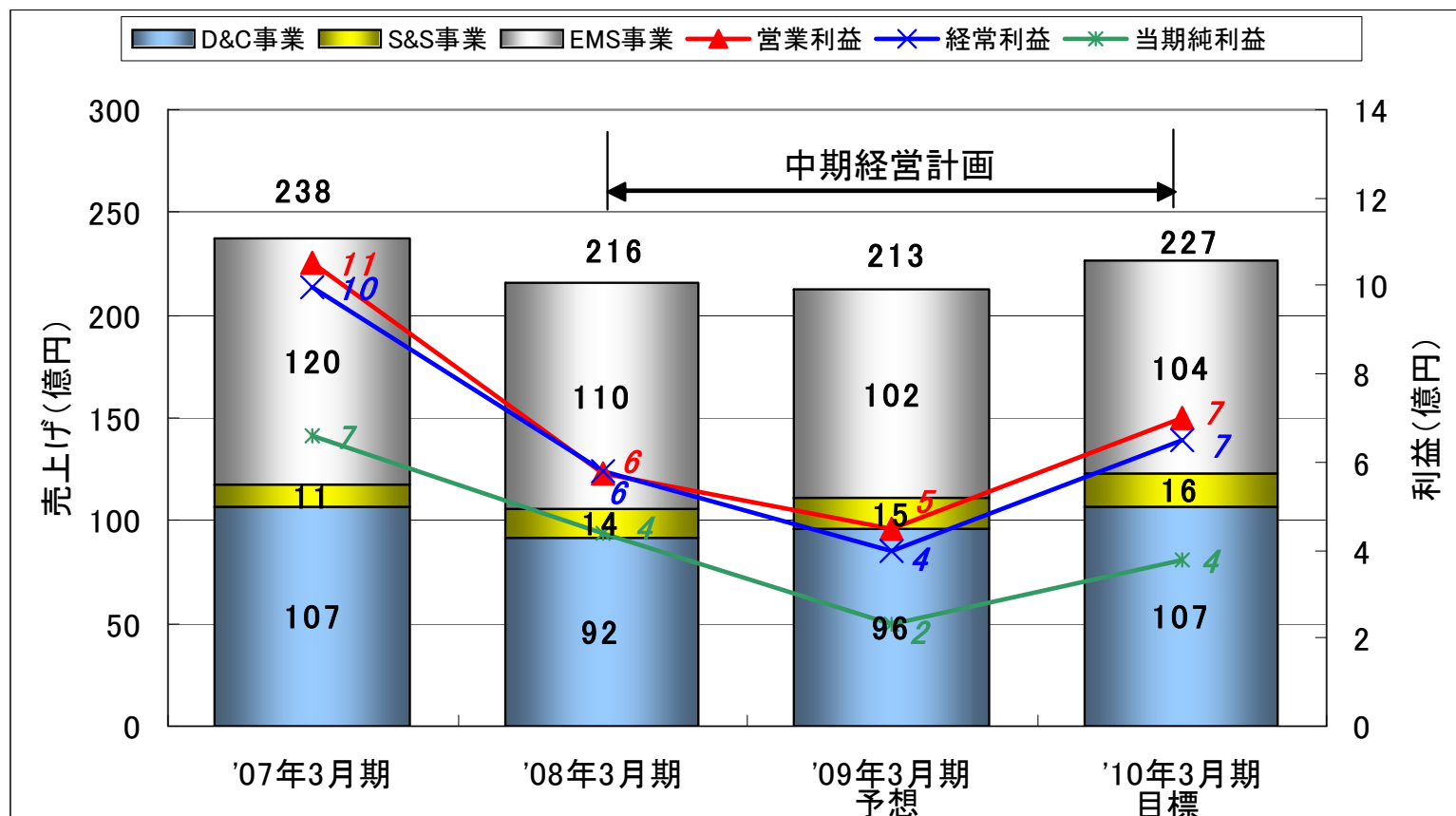
3. 中期経営計画 (1) 収益の状況



	中期経営計画				
	2007年3月期 (実績)	2008年3月期 (実績)	2009年3月期 (予想)	2010年3月期 (目標)	(’07/5開示目標)
売上高	23,785	21,584	21,300	22,700	24,500
(D&C事業)	(10,653)	(9,189)	(9,610)	(10,700)	(14,000)
(S&S事業)	(1,106)	(1,380)	(1,460)	(1,600)	(1,500)
(EMS事業)	(12,025)	(11,015)	(10,230)	(10,400)	(9,000)
営業利益	1,051	572	450	700	1,500
経常利益	995	577	400	650	1,450
当期純利益	660	439	230	380	900
営業利益率(%)	4.4%	2.7%	2.1%	3.1%	6.1%
ROE(%)	9.8%	6.5%	3.4%	5.1%	10.5%
1株当り当期純利益(円)	200円	133円	70円	115円	272円
1株当り純資産額(円)	2,052円	2,058円	2,084円	2,155円	2,600円

- ①上記の予想及び目標は、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって、予想及び目標数値と異なる可能性があります。
- ②1株当りの算出は、当期純利益・純資産額とも、現在の発行済み株式数(3.3百万株)を分母としています。

(1) 収益の状況



【連結】

(億円)

	'07年3月期	'08年3月期		'09年3月期	'10年3月期
	実績	中計	実績	予想	目標
売上高	238	205	216	213	227
営業利益	11	11	6	5	7
経常利益	10	10	6	4	7

(2) ‘08年3月期実績を踏まえた 中期経営計画 具体的施策の見直し

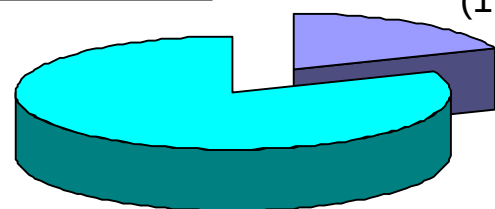
- ① 拡張ボード系機器に関して、産業用パソコンの応用分野の拡大に対応できる商品群の品揃え強化と戦略的市場開拓
- ② 産業用パソコン系機器及びネットワーク系機器に関して、顧客要求への対応力を強化し、標準品の組合せによるカスタム案件及びOEM/ODM案件の比率を拡大
- ③ 海外市場での更なる拡販のため、品質・価格・総合サービスなど海外市場の特性にあった商品開発の加速
- ④ 自社開発力の更なる強化と技術提携などによる研究開発の多面的展開
- ⑤ グローバルな生産及び調達体制の更なる充実と生産コストの極小化
- ⑥ 国内外での人材の確保と育成
- ⑦ 内部統制体制の更なる強化とCSRの推進
- ⑧ 環境問題への対応の加速化

(3) 市場規模と基本戦略

市場規模

電子機器市場(D&C事業) 3,760億円

世界市場

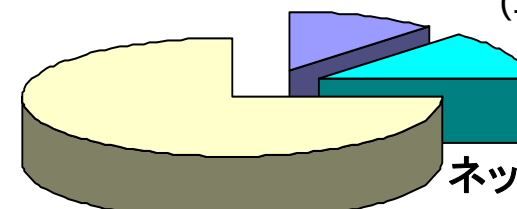


日本 710 億円
(19%)

海外 3,050 億円
(81%)

機種別

拡張ボード系 440 億円
(12%)

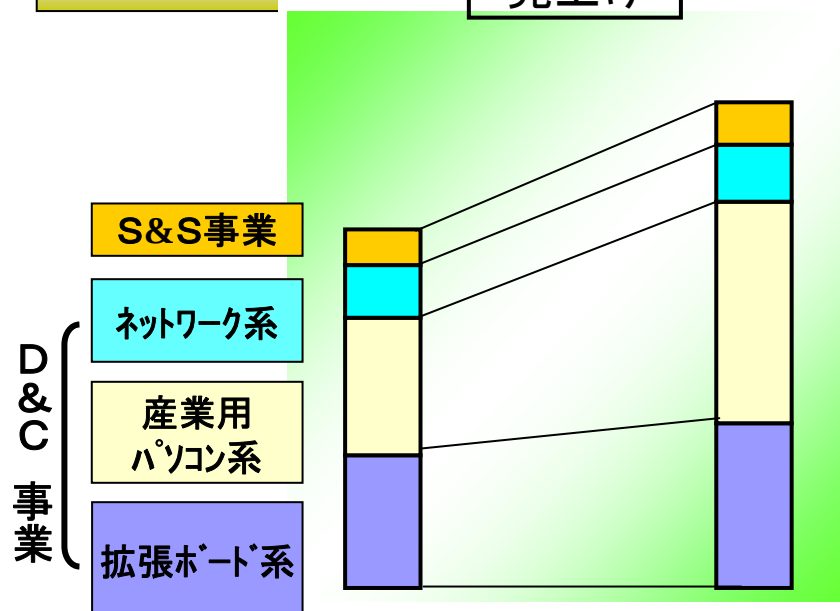


産業用パソコン系 2,820 億円
(75%)

ネットワーク系 500 億円
(13%)

基本戦略

売上げ



2008年3期

2010年3月期

機種別施策

拡張ボード系機器

拡張ボード系で強固な利益体質を作る。

産業用パソコン系機器

売上拡大のため、産業用パソコン系のビジネスを拡大する。

ネットワーク系機器

将来の市場拡大を期待して、技術開発販売活動を継続する。

S&S事業

特にソリューション系を伸ばしていく。

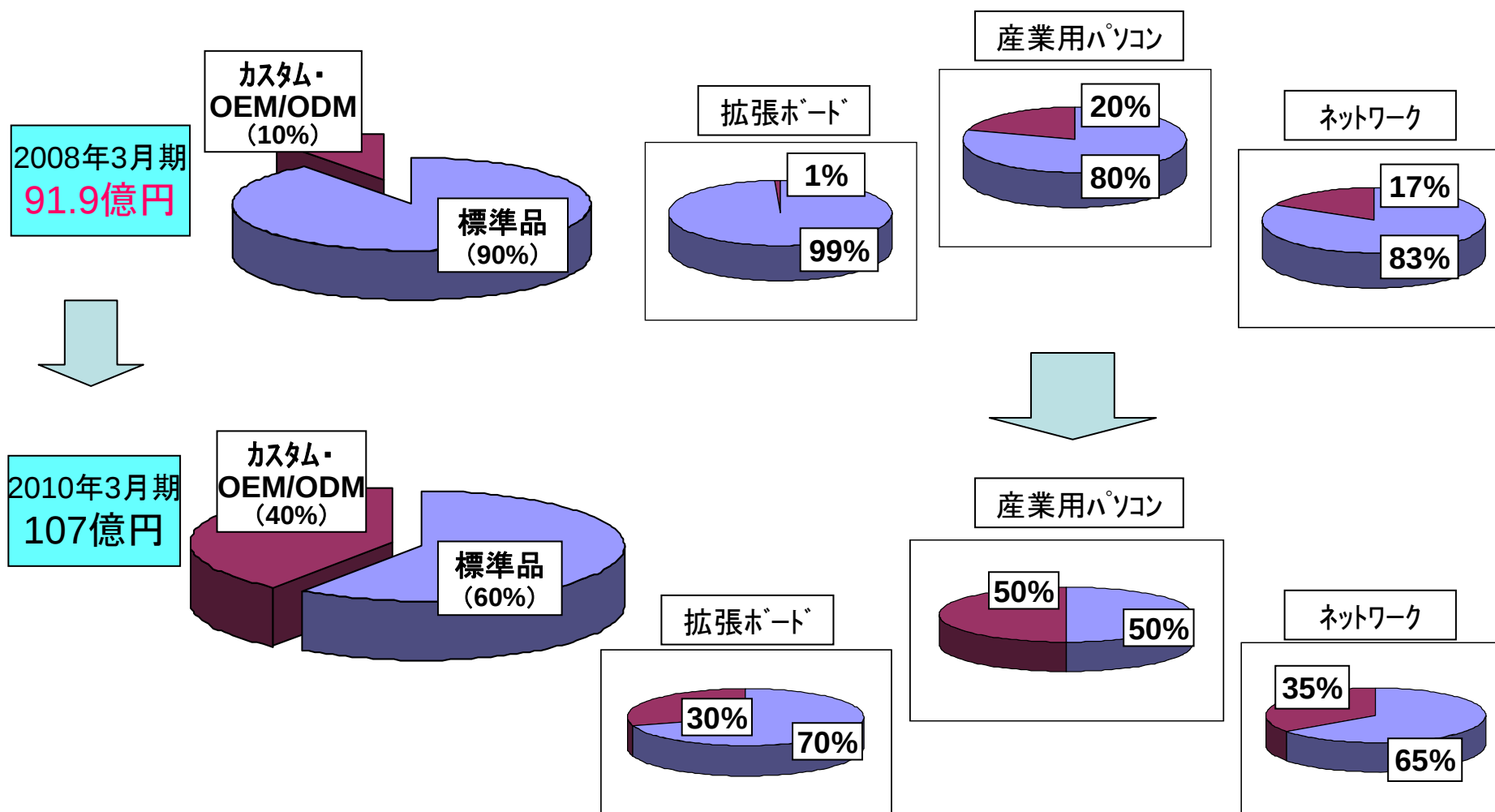
カスタム・OEM/ODM

システム機器

グローバル市場

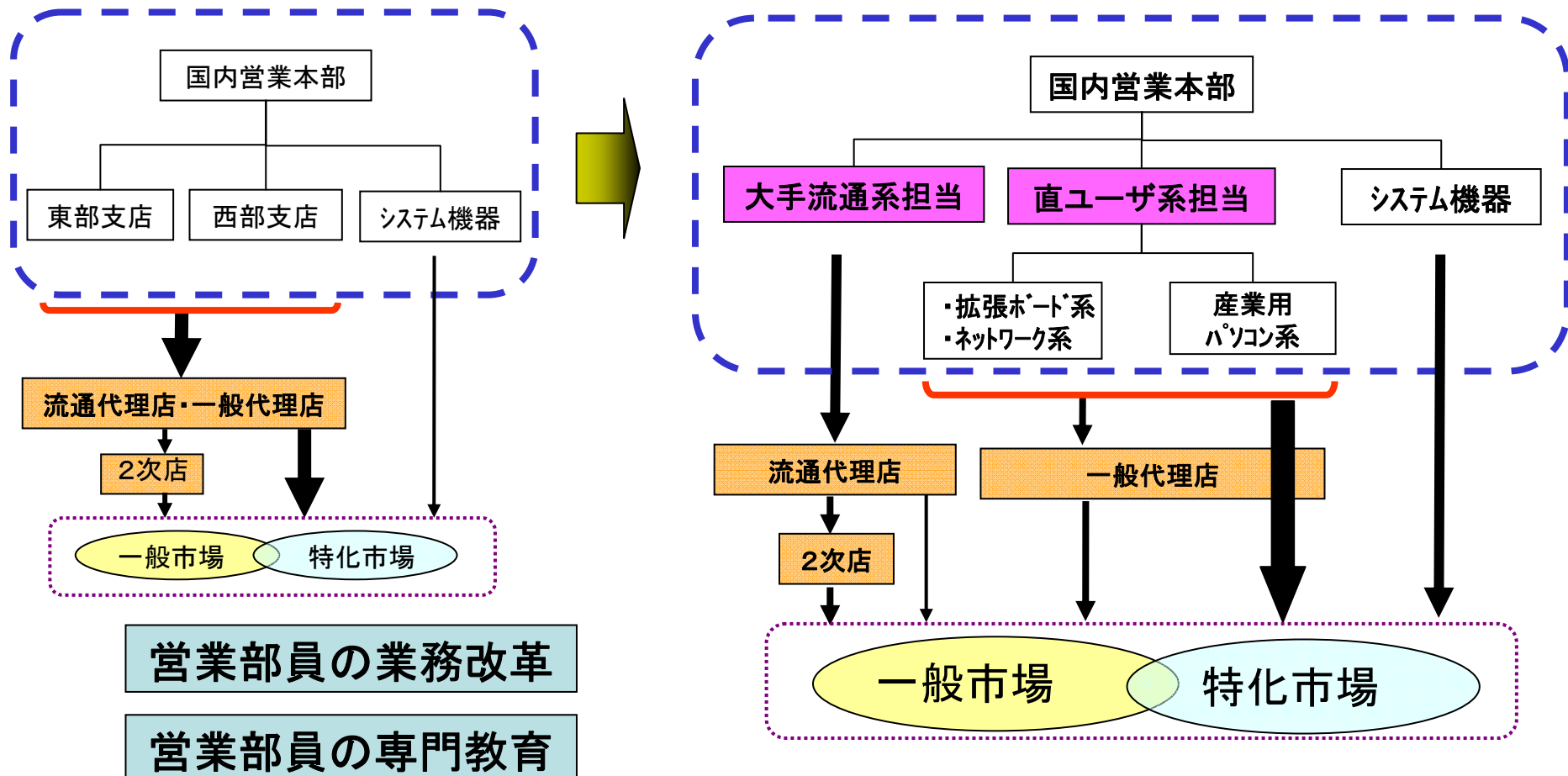
(4) 売上内容の改革(D&C事業)

一般市場向け標準品主体の売上から、特化市場及びカスタム・OEM/ODM品の売上比率を増大させる。



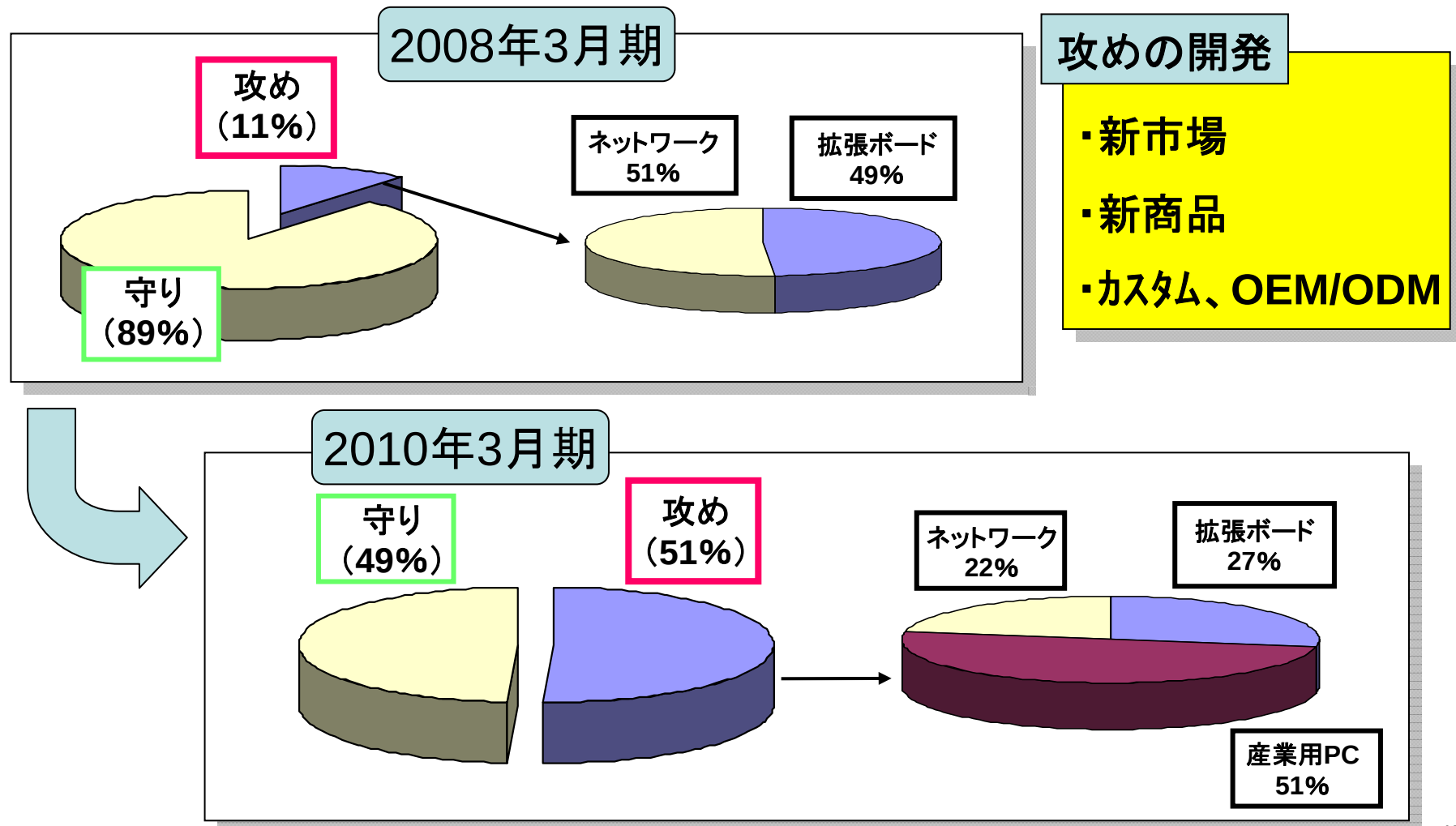
(5) 営業組織の改革

カスタム案件・OEM/ODM案件を受注するための
組織改革を行う。



(6)開発内容の改革

開発内容を、守りから攻めの開発に転換する。



(6)-1 機種戦略の見直し

拡張ボード系ではeTEST開発、産業用パソコン系では、ボードパソコンのコア技術開発をベースに、カスタム・OEM/ODM開発に注力する。又、開発力を更に増強するため海外アライアンス先との協業も推進する。

機種別開発比率

【2008年3月期】

【2010年3月期】

拡張ボード系 32%		eTEST 12%
産業用PC 24%		拡張ボード 20%
セットアップPC 8%		産業用PC 27%
ボードPC 15%		セットアップPC 18%
ネットワーク系 21%		ボードPC 3%
		ネットワーク系 20%



①eTEST



②③産業用
パソコン

海外アライアンス先
との開発協業



④協業

計測・検査市場への進出

標準品



計測ソフト



計測ボード



産業用パソコン

カスタム品 (組合せ対応品)



A社

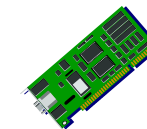
B社

C社

OEM/ODM品 (設計変更品)



専用検査ソフト



専用ボード



A社 検査専用パソコン

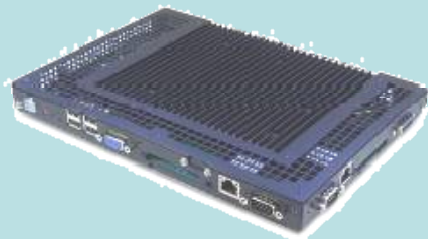
B社

C社

② 産業用パソコン(ボックスコンピュータ)



標準品



薄型ボックスコンピュータ
IPC-BX950

カスタム品 (追加対応品)

例1



標準コネクタを追加・変更

例2



外部記憶装置を追加

OEM/ODM品 (設計変更品)

例1



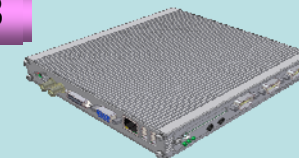
演算能力向上(CPU置換)

例2



設計変更による特殊コネクタ増設

例3



薄型技術を活かした専用開発

③ 産業用パソコン(パネルコンピュータ)



標準品



CEパネコン

カスタム品 (追加対応品)



CEパネコン
+
Active Touch

OEM/ODM品 (設計変更品)



厨房用パネコン

防滴・防油・ステンレス筐体
高耐久性タッチパネル

④ 海外アライアンス先との開発協業

A社：タブレットパソコン

狙い

小型の現場向けタブレットPCで市場参入し、産業用パソコン系ビジネスの拡大を図る。



I 社：FAパソコン

狙い

国内200億円のFAパソコン市場に参入し、産業用パソコン系ビジネスの拡大を図る。
最新CPUチップと価格対応力を武器とする。



W社：ソフトウェア

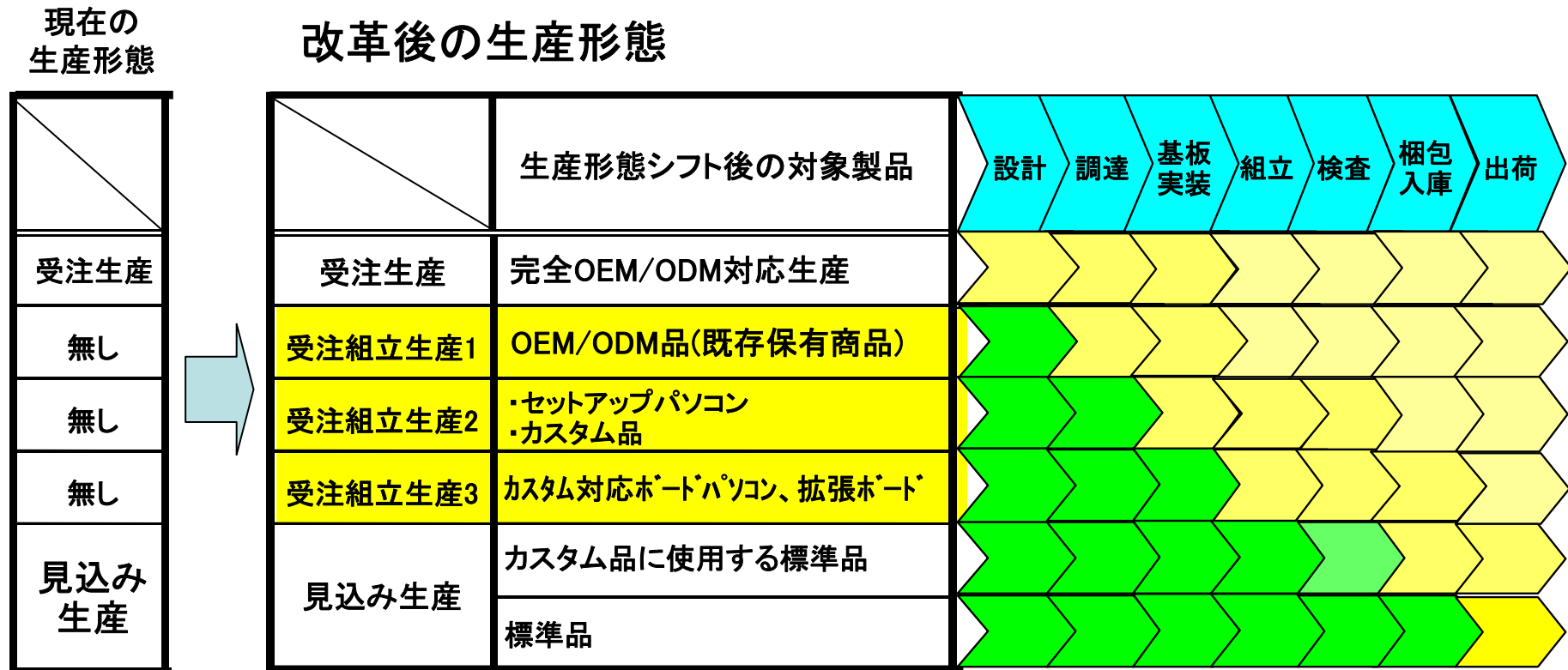
狙い

W社のHMIソフトウェアとコンテックのWindows CE
パネルコンピュータを組合わせて、産業用パソコン系
ビジネスの拡大を図る。



(7) 生産の改革

見込み生産からカスタム・OEM/ODMの生産体制に変革する。



受注組立生産1：OEM/ODM品

手配部品

部品在庫品

実装

基板・筐体生産



OEM/ODM基板

組立

OEM/ODM

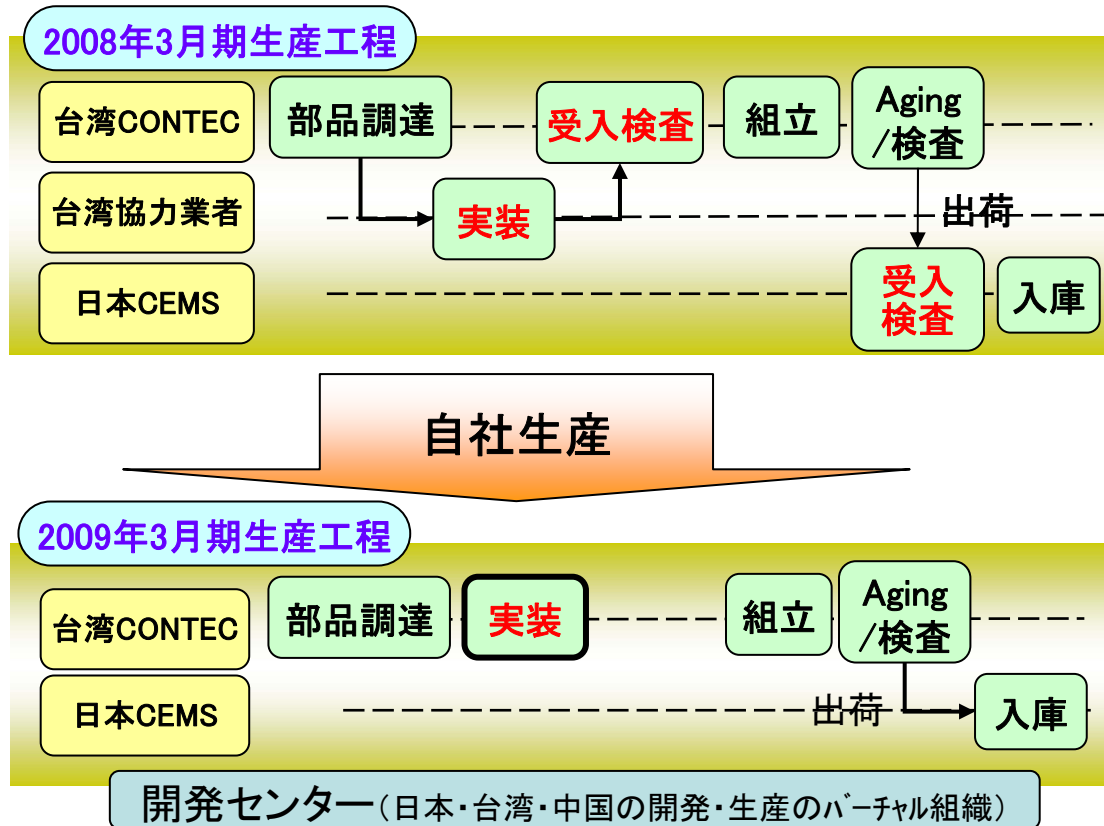


(7)－①ボードパソコンの自社生産と共同調達

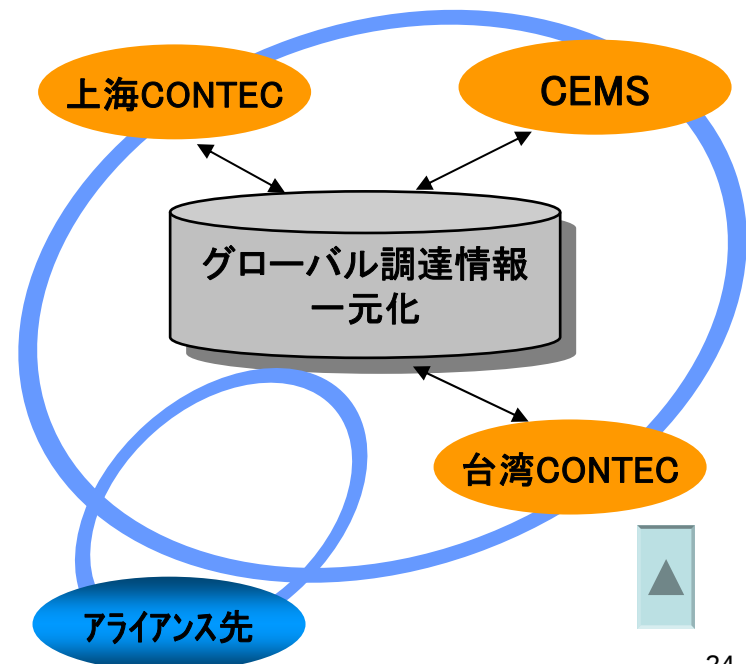


台湾CONTECの産業用パソコン系
(ボードパソコン、筐体)の生産を1年を
目処に内製化する。

CONTECグループ及び
アライアンス先との
「共同調達」で、コストダウン
を推進する。



- ①3拠点での集中購買
- ②同一メーカーへの統一
- ③部品共通化の推進



(8) システム機器製品の事業化

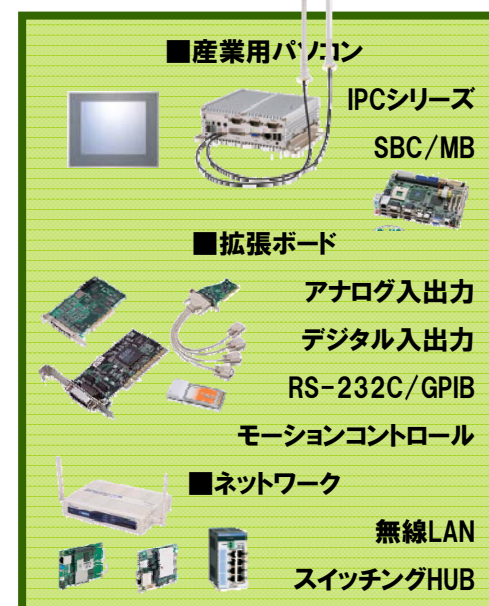
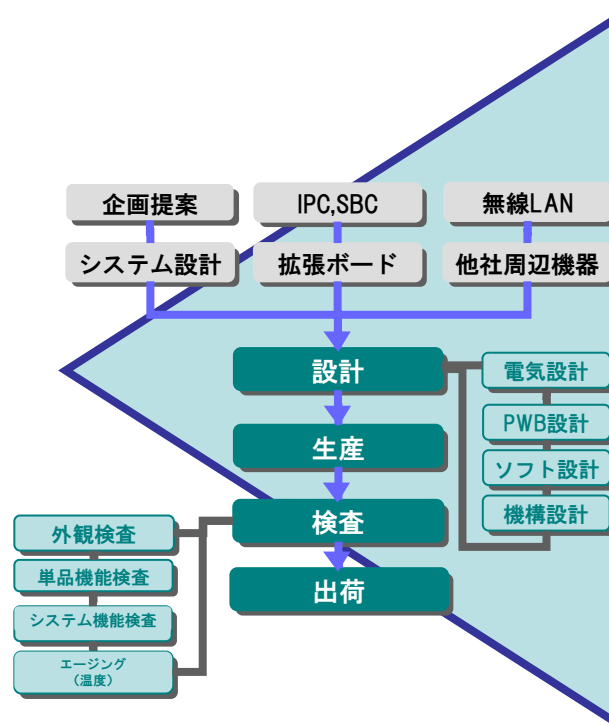
事業内容

コンテック製品を組み込んだ、KIOSK端末や
制御ユニットなどの受託開発・製造・設置
・メンテナンスを行う。

産業用パソコン、シングルボードコンピュータ、
オペレーティングシステム、ドライバーソフト、
各種拡張ボード、無線LAN等を組込む。



ドライバーソフト: オペレーティングシステムからハードウェア
の動作を支援するソフトウェア
KIOSK: 多彩なサービス展開を可能にする新しい多目的端末



(9) 海外ビジネスの拡大

全体市場規模の80%を占める海外市場にビジネスを拡大していく。
受身から攻めへ

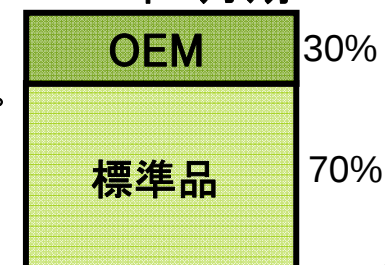
【海外売上げ目標】

2008年3月期



70%アップ

2010年3月期



コンテックグループの技術力、ソリューション力で
カスタム・OEM/ODMビジネスを拡大する。

【最近の受注アイテム】

- ・ドイツからのセットアップパソコン
(空港セキュリティ装置用)
- ・中国外資自動車メーカーからの
ボックスコンピュータ(生産ライン用)

日本・中国・台湾

営業

技術

生産

サービス

標準品販売

OEM/ODM対応

情報量の増大

●代理店との関係強化

- ・案件情報の定期的入手と内容管理
- ・ユーザーへの同行訪問の強化

●代理店数 60社へ増加

- ・30社→60社

●展示会は共同参加の推進

- ・出展回数の拡大
- ・エリアでのセミナー開催

添付資料 会社紹介 目 次

I	会社概要	P.28
II	コンテックグループの紹介	P.30
	1.事業と製品の紹介	P.31
	2.販売体制	P.45
	3.開発・生産体制	P.46
	4.品質・環境・情報への取組み	P.47

I. <会社概要>コンテックとは



★FA分野に、マイコンに代わるパソコン市場を創造

- 1975年、親会社・(株)ダイフクから制御システム部門の一部が企業内ベンチャーとして独立。
- FA・LA分野でのマイコン応用から、パソコン活用を提唱し市場を創造。
- 1982年、世界に先駆けて「計測制御用インターフェイスボード」を開発。

★拡張ボードから産業用パソコンへ、更に無線LANへ

- パソコン機能をボードサイズに凝縮したボードパソコンやFA仕様の産業用パソコンを開発。
- 無線LANの産業用途にいち早く着目、産業向けに適した無線LAN機器を独自開発・生産。

★独自技術による開発、強固な営業基盤

- 親会社など外部に依存しない独自の技術力による商品開発。
 - 親会社とは違った事業分野での強固な営業基盤。
- ⇒ 創業第3期以降、30年間連続で経常利益黒字を確保。

★ファブレスからファブリックへの転換

- 2004年、(株)ダイフクの電子制御生産部門を当社の生産事業に統合、生産子会社(株)コンテック・イーエムエスを設立。
- 本格的な生産機能を持ち、生産量の拡大・設備の拡張によるコストダウンを実現。

★開発と開拓とコストダウンによる成長

- ネットワーク社会・ユビキタス社会・ボーダレス社会への進展に伴う事業分野の拡大とビジネスチャンスの飛躍的増大。
- 生・販・技のグローバル展開の加速化による事業基盤の更なる強化。

※FA:ファクトリー・オートメーション、LA:ラボラトリー・オートメーション

I. <会社概要> 沿革



1975年 4月	株式会社コンテック設立、資本金500万円
1979年 4月	東京事務所(現 東部事業所)を開設
1981年 7月	中国との技術交流スタート
1982年 9月	NEC製パソコン用のインターフェイスボードを開発、販売開始
1986年 6月	米国サンタ・クララに「CONTEC MICROELECTRONICS U.S.A. INC.」を設立
1987年10月	中国北京市に「北京康泰克電子技術有限公司」を設立
1988年 5月	NEC 製パソコンPC-98バス互換ボードコンピュータを開発、販売開始
1990年 9月	中国上海市に「上海康泰克電子技術有限公司」を設立
1991年 6月	資本金を2億円に増資
1992年 4月	名古屋市に中部事業所を設置
1993年 4月	工業用パソコン「IPCシリーズ」を開発、販売開始
1995年 4月	ISO9001認証取得
1995年 9月	中国上海・松江工業区に「上海康泰克数字設備有限公司」を設立（2006年9月、上海康泰克電子技術有限公司と合併）中国での生産開始
1996年 6月	資本金を4億5,000万円に増資
1999年 3月	無線LAN「FX-DS20」を開発、販売開始
2002年 6月	ISO14001認証取得
2004年10月	日本における生産子会社として「株式会社コンテック・イーエムエス」を設立
2006年 1月	台湾台北市に「台湾康泰克股份有限公司」を設立
2007年 3月	東京証券取引所市場第二部に上場、資本金11億1960万円に増資 現在に至る

Ⅱ. コンテック グループの紹介

1. 事業と製品の紹介
2. 販売体制
3. 開発体制・生産体制
4. 品質・環境・情報への取組み

①デバイス&コンポーネント事業（D&C事業）

あらゆる自動化分野において必要な各種電子機器商品を提供しています。

【拡張ボード系
機器】

【産業用パソコン系機器】

【産業用パソコン】

【ボードパソコン】

【セットアップパソコン】

【ネットワーク系
機器】

②ソリューション&サービス事業（S&S事業）

デバイス&コンポーネント商品をベースに、ハード・ソフトを結合した最適システム提供します。

【システム系】

【ソリューション系】

③EMS事業（Electronic Manufacturing & Service事業）

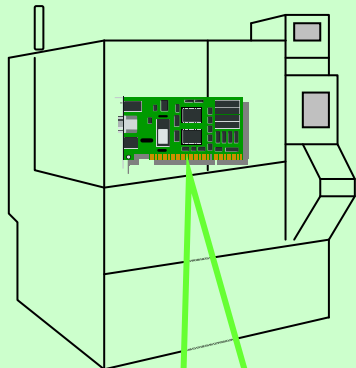
主に(株)ダイフク向けの制御盤・制御モジュール、ワイヤハーネスの受託生産を行っています。

①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



拡張ボード系

拡張ボード系組み込み事例
ex. 半導体製造装置



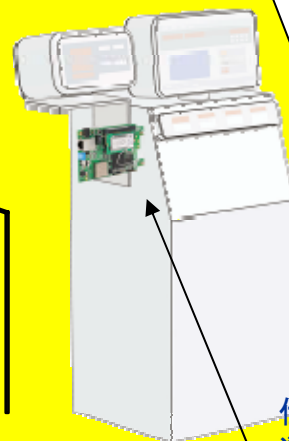
アナログ入出力ボード、
デジタル入出力ボード、
モーションコントロール、
画像処理ボード等を装置
に組込

産業用 パソコン系

産業用パソコン系組み込み事例
ex. 券売機、保険受付端末、
KIOSK端末 等



パネルコンピュータ



ボックスコンピュータ



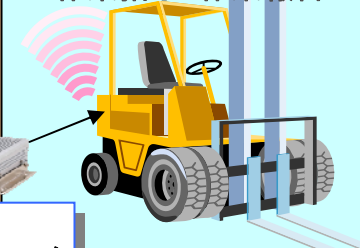
ボードパソコン

仕様により
選択

ネットワーク系 (無線LAN等)

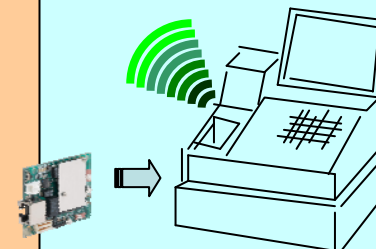
無線LAN組み込み事例
ex. フォークリフト、
無人搬送車 等

無線LAN
フォークリフト搭載事例
作業指示・作業報告



車載用
ボックスコンピュータ

無線LAN
端末に無線LAN基板
組み込みの例



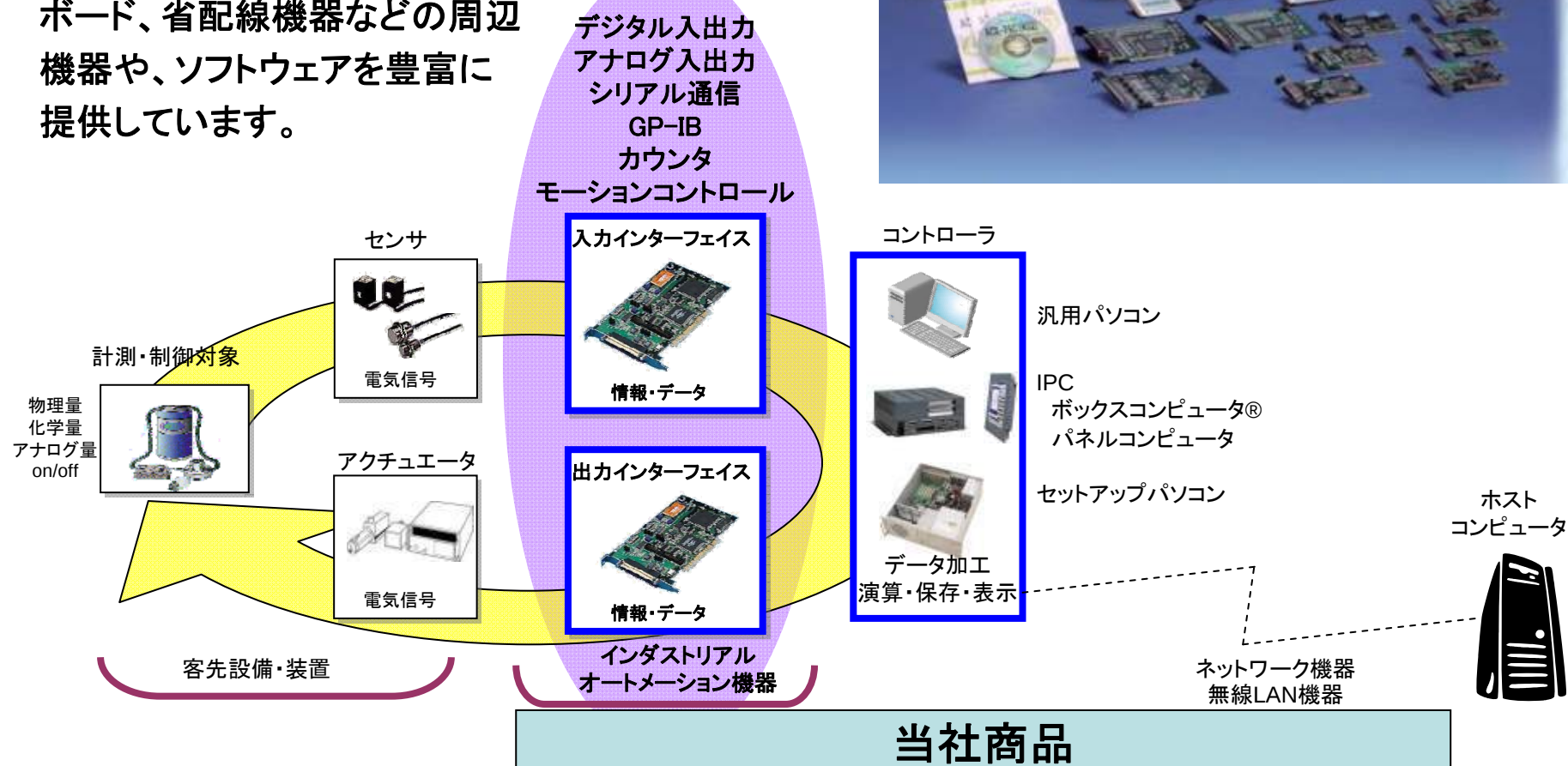
組込用無線LAN基板

①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



事業の内容 a)拡張ボード系

手軽でローコストなあらゆる
オートメーション構築を可能にする
各種パソコン用インターフェイス
ボード、省配線機器などの周辺
機器や、ソフトウェアを豊富に
提供しています。



事業の内容 a)拡張ボード系

パソコン活用の計測・制御機器や周辺装置でトップシェア(国内30%)

《他社との差別化要因》

- 総合カタログ配布数 年間6万部強、有効登録顧客数 3万件強の実績を持ち、パソコンFAの業界に確固たるブランドを構築。
- ユーザーをサポートする商品点数が多い。
- 納入先設備の維持に必要な長期供給を実現。
生産終了時も上位互換で提供。
⇒パソコンの進化にはすぐに対応。旧タイプの需要にも長期的サポート。

「パソコンの手軽さをFA/LAに！」を標榜して25年。パソコン計測・制御市場を創造。

専門技術者がいなくても、
高価な計測器をそろえなくても、、、 パソコンで手軽に計測制御・FAを実現。
..... 中小企業でも、町工場でも

品質／歩留まり／効率 の向上にパソコン計測・自動化は不可欠、まだまだ伸びる市場。
USB接続型の発売、及び すぐに使えるソフトの添付で、更に手軽な導入が可能。

①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



事業の内容 b)産業用パソコン系



各種「産業用パソコン(パネルコンピュータ、ボックスコンピュータ)」と、その核になる「ボードパソコン(各種 Single Board Computer)」及び周辺機器を、高品質と長期供給保証で提供しています。

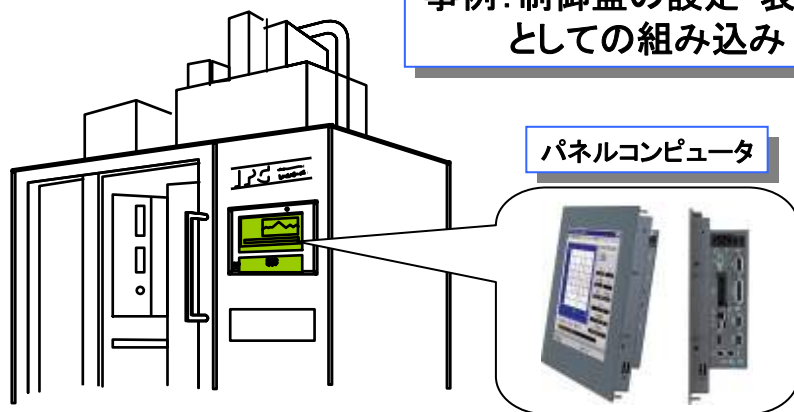


- ・パネルコンピュータ
- ・ボックスコンピュータ®
- ・フラットパネルディスプレイ
- ・シリコンディスクドライブ

・SBC ・シャーシ ・バックプレーン

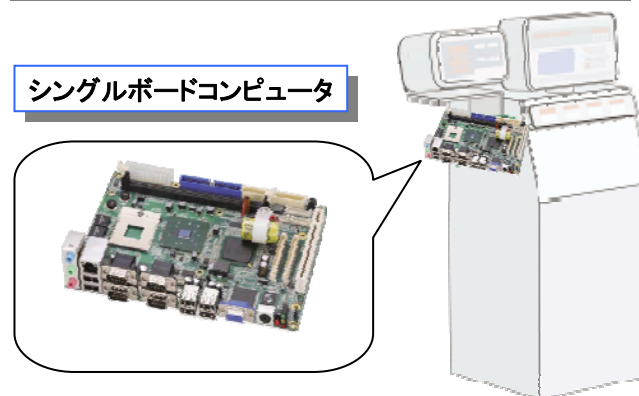
(ボックスコンピュータ®は、当社の登録商標。)

事例:制御盤の設定・表示器としての組み込み



パネルコンピュータ

事例:多機能端末装置への組み込み

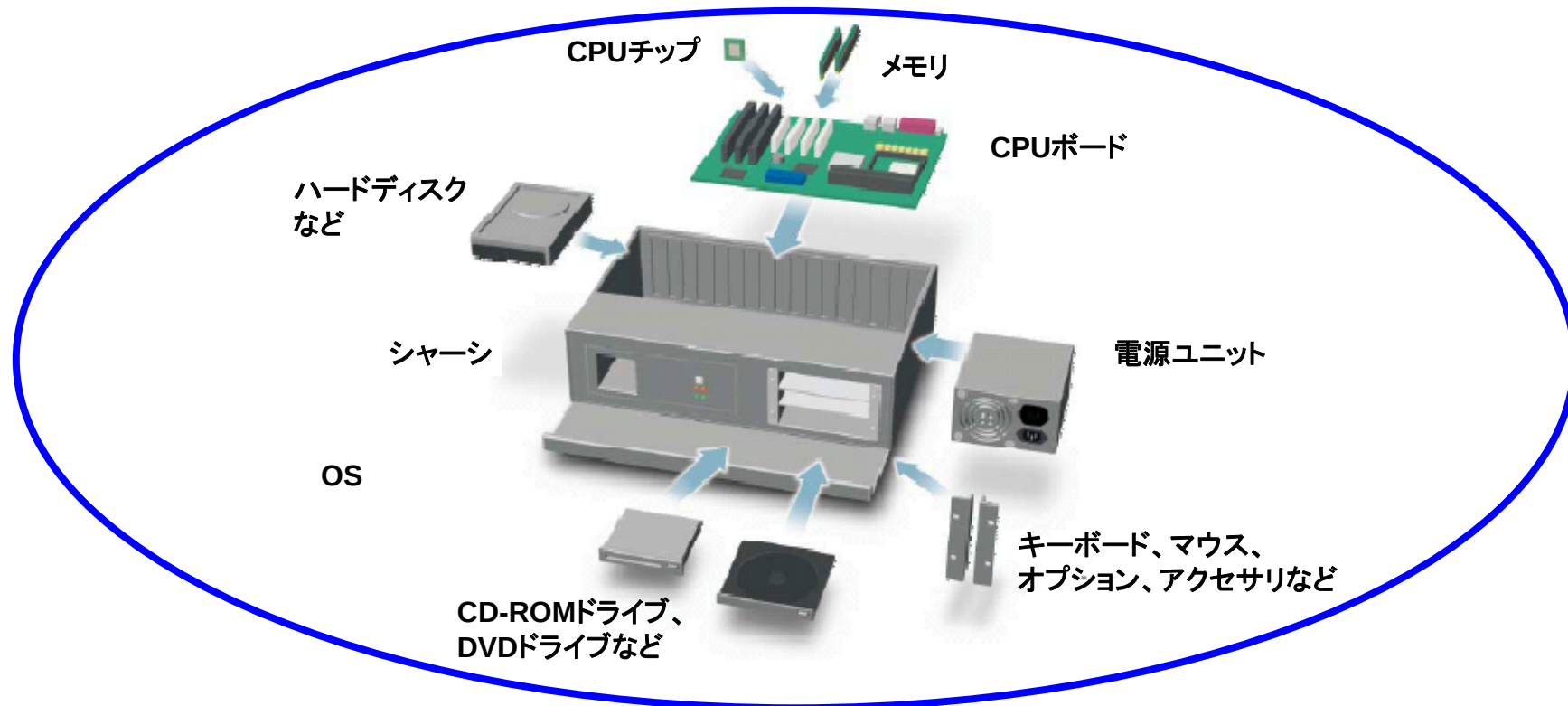


シングルボードコンピュータ

事業の内容 b)産業用パソコン系

「セットアップパソコン」

極めて高い耐久性や信頼性が求められる産業用途向けの組み込みパソコンを、顧客の要望に合わせた仕様にBTO (Build To Order) で提供しています。



事業の内容 b)産業用パソコン系

パソコンFAを提唱する中、“組み込みに適したパソコンを”の要望に応え、18年前に組み込み用パソコン(IPC)の概念を確立し、市場に提供。

- パネル型、ボックス型、ボード型のパソコンを開発。「ボックスコンピュータ®」は当社の登録商標。
- 省スペース型、高速型、クリーンルーム対応・特定用途対応など、多彩な需要に応える品揃えと開発体制を構築、市場要求に対応。
- 世界のパソコン供給基地、台湾に開発・生産子会社を設立すると共に、台湾企業と協業体制を組み、顧客対応製品・先端製品をいち早く開発・生産。

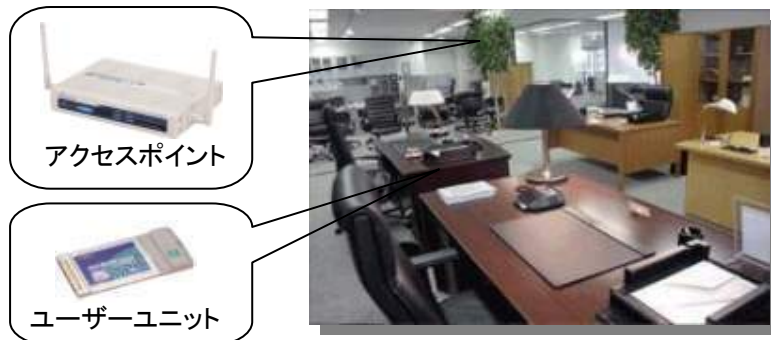
①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



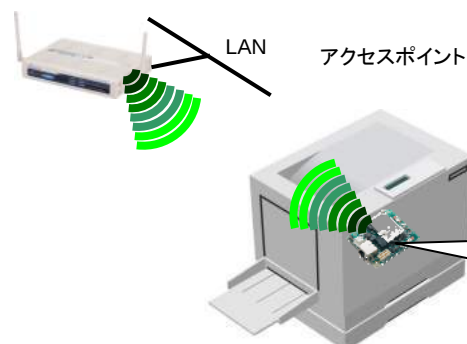
事業の内容 c)ネットワーク系

標準規格に加え、独自機能を付加して、セキュリティや管理機能を強化した、自社開発・自社生産の無線LAN機器を、オフィス用途／産業用途に提供。また、その技術をもとに、機器組み込み用無線LANモジュールも提供しています。

事例:オフィスの無線LAN

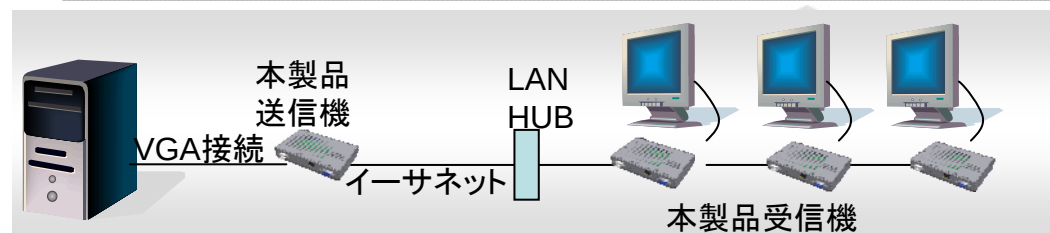


事例:機器組み込み用無線LANモジュール



オフィスの無線LAN化以外にも
病院における電子カルテシステム／看護支援システムの無線化
流通センター、大規模店舗における受入・検品、POSの無線化
LAN対応機器の無線LAN化 など

新商品 Flex Net Viewer
イーサネット技術を活用した
画像送信商品



事業の内容 c)ネットワーク系

9年前から産業向けに特化した無線LAN製品を手がけ、豊富な実績。

- ハード／ソフトの独自開発・独自生産により、きめ細かなサポート、サービスを実現。
- 大手ネットワーク システムインテグレータ各社に取り扱いいただき、オフィス、病院、学校等に導入多数。機能、信頼性、管理ソフトなどで高い評価。
- 豊富な経験を基に、有線LANを無線化する機器組み込み用モジュールを開発。量産機器への組み込み需要が活発化。

①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)

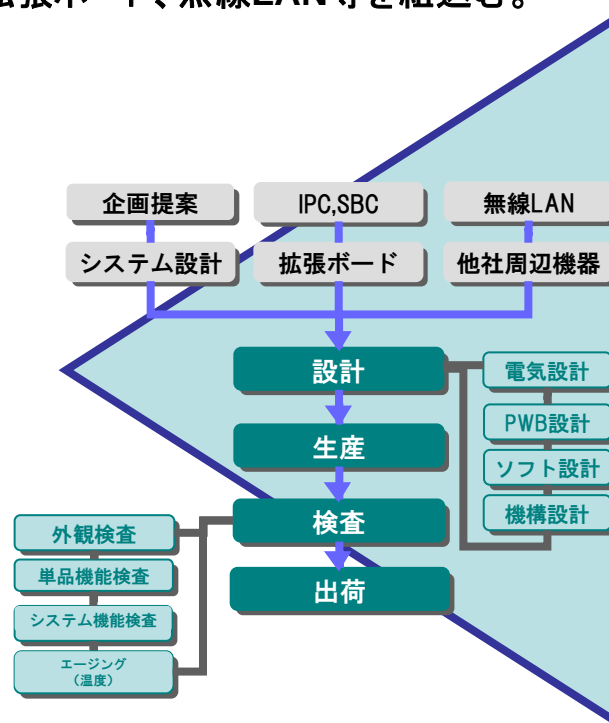


事業の内容 d)システム機器

事業内容

コンテック製品を組込んだ、KIOSK端末や制御ユニットなどの受託開発・製造・設置・メンテナンスを行います。

産業用パソコン、シングルボードコンピュータ、オペレーティングシステム、ドライバーソフト、各種拡張ボード、無線LAN等を組込む。



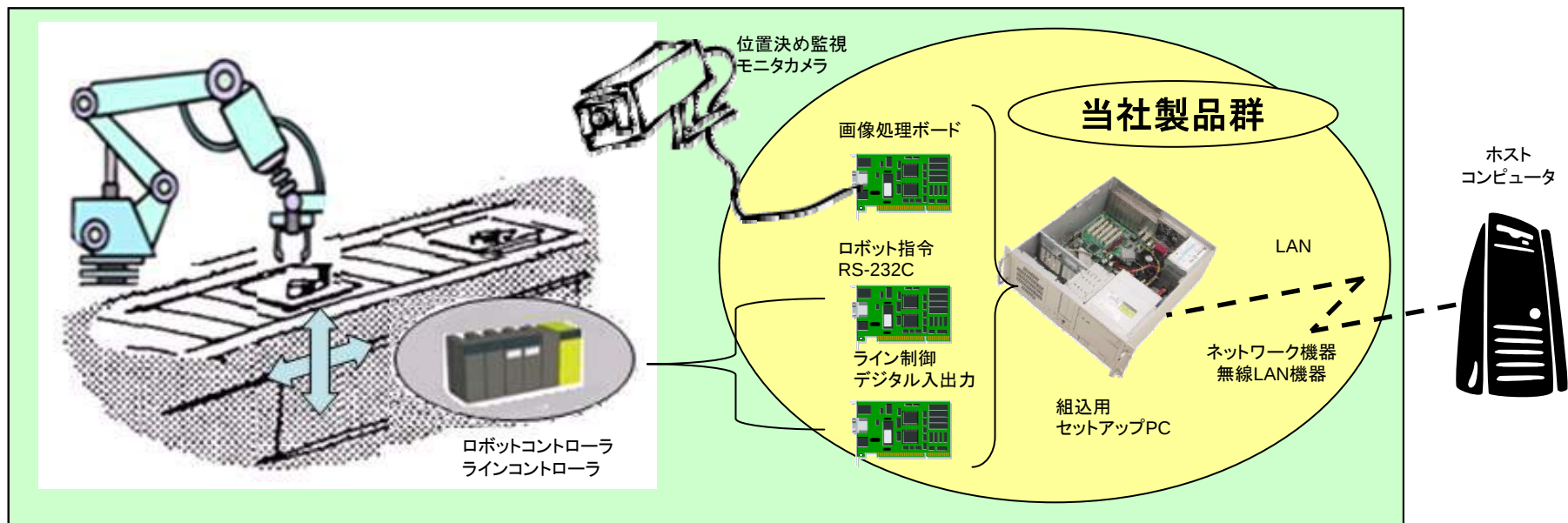
①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



事業の内容 : 客先設備でのシステム構築事例

客先設備の中で、当社製品(拡張ボード系機器、セットアップ パソコン等)が、組み合わされて、システムを構成しています。

セットアップパソコンに ・画像処理ボード ・デジタル入出力ボード ・通信ボードをセット
→ モニタカメラから画像データをパソコンに取り込み
→ パソコンで位置ズレ情報を解析
→ ロボットコントローラ、ラインコントローラに位置制御情報を出力
→ 位置決め完了にて、ロボットで自動組み立てを行っている……………事例。



②ソリューション＆サービス事業（S&S事業）



事業の内容 a)システム系

当社設立時から手がけた国内全ての自動車メーカーに対する自動塗装機制御システムの実績をベースに、近年は各工場の生産管理システムインテグレーションも手がけています。

生産管理システム



- ・生産指示 / 実績収集トータルシステム
- ・トレーサビリティ支援システム
- ・Web情報配信システム

自動塗装機制御システム



- ・Monitoring Package (Paint Pro)
- ・ロボット、自動機制御

②ソリューション＆サービス事業（S&S事業）

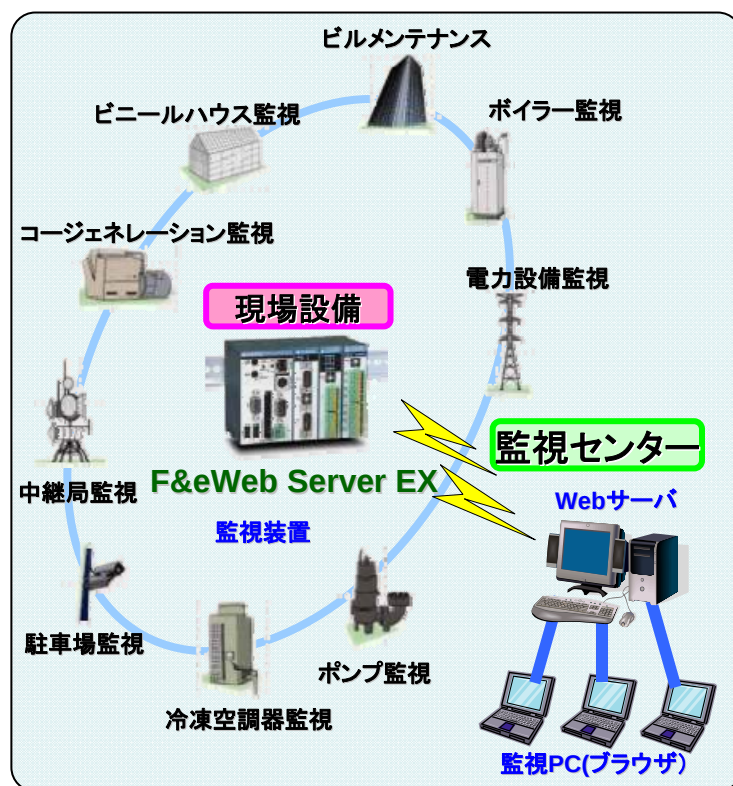


事業の内容 b)ソリューション系

遠隔監視用サーバ／パッケージ製品を基軸に、各種遠隔監視ソリューションを受託制作。

ソーラーパネルメーカー／設置業者とのタイアップにより、太陽光発電のデータ収集・表示・管理システムを提供。

遠隔監視システム



太陽光発電データ表示システム



事業の内容

生産子会社
株式会社コンテック・イーエムエス
において、当社製品の生産を行うと
同時に、主に株式会社ダイフク
(親会社)向けの制御用電子機器・
装置・ハーネスを受託製造

物流装置
周辺コントローラ



自動倉庫周辺
ユニットコントローラ



コンベヤ制御盤の制作風景



ローラーコンベヤ
電源接続ユニット



自動倉庫クレーンの
地上制御盤



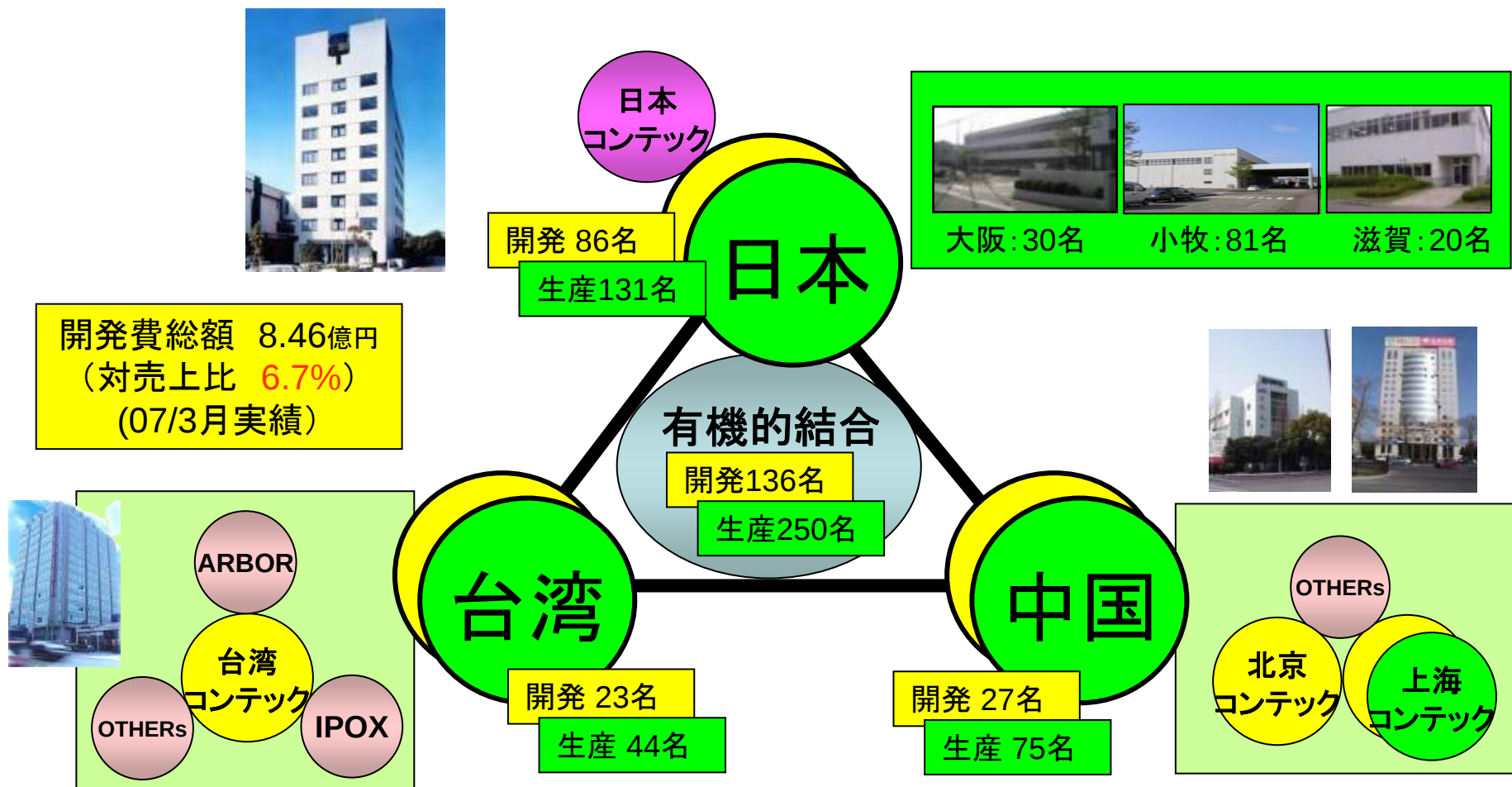
II. 2. 販売体制

海外販売体制を更に強化し、海外事業の拡大を図る。



Ⅱ. 3. 開発・生産体制

日本・台湾・中国の3極開発体制の強化による Global開発・生産の推進



Ⅱ. 4. 品質・環境・情報への取り組み

品質

ISO9001



ISO 9001:2000, JIS Q 9001:2000
Approval Certificate No: YKA0937904
認証取得事業所:
コンテック、コンテック・イーエムエス

1995年4月
認証取得

情報

プライバシーマーク



2005年5月
認証取得

環境

ISO14001



ISO 14001:2004, JIS Q 14001:2004
Approval Certificate No: YKA0773041
認証取得事業所:
コンテック本社、コンテック・イーエムエス

2002年6月
認証取得

鉛フリー化／RoHS指令



2004年11月から
順次対応

この資料には、当社の現在の計画や業績の見通しなどが含まれております。それらの計画や見通しなどは、現在当社が入手可能な情報を元に計画、予測したものです。実際の業績などは、様々な条件の変化により異なった結果となることがあり、この資料は、それら計画や見通しなどの実現を保証したものではありません。

株式会社コンテック